

21 世紀兵庫長期ビジョンの推進状況報告書
(平成 27 年度)

平成 28 年 9 月

兵 庫 県

<目 次>

I	21世紀兵庫長期ビジョンの概況	1
II	全県ビジョンの推進状況	
1	創造的市民社会	2
2	しごと活性社会	8
3	環境優先社会	13
4	多彩な交流社会	17
III	地域ビジョンの推進状況	22
IV	推進状況の評価	
1	「兵庫のゆたかさ指標」によるビジョンの推進状況評価	24
2	「全県ビジョンフォローアップ指標」によるビジョンの推進状況評価	27

I 21世紀兵庫長期ビジョンの概況

- 平成23年12月に県議会の議決を経て、改訂した「21世紀兵庫長期ビジョン～2040年への協働戦略～」は、2040年の兵庫の未来像として「創造と共生の舞台・兵庫」を掲げ、「創造的市民社会」、「しごと活性社会」、「環境優先社会」、「多彩な交流社会」の4つの社会像のもと、兵庫のめざす姿がよりわかりやすいものとなるよう、新たに12の将来像を提示している。
- 県民、各種団体、企業・事業者、行政など多様な主体が取組を進めていく行動指針として、「全県ビジョン推進方策（前期：平成25～29年度）」を平成25年5月に策定し、全県と地域が連携しながら取組を進めている。また、ビジョンの実現状況を点検・評価するため、県民の実感で捉える「兵庫のゆたかさ指標」及び県の実績成果や事業量で測る「全県ビジョンフォローアップ指標」から構成する「全県ビジョン指標」を平成26年3月に策定した。
- 地域においては、それぞれの地域の課題を踏まえ、平成23年度に改定した地域ビジョンに掲げる将来像の実現に向けて、地域ビジョン委員会を中心に、より多くの意欲ある県民の参画を得ながら、地域夢会議や各地域のシンボルとなるプロジェクトなど、地域の特性を活かした取組を進めている。
- この報告では、県政における主な施策の取組状況等を通じた平成27年度におけるビジョンの推進状況について、4つの社会像と12の将来像の体系に沿って明らかにする。

II 全県ビジョンの推進状況

1 創造的市民社会

(1) めざすべき社会像

- 「創造的市民社会」では、家族や地域の支え合いにより生活の基盤や安全安心が確保され、健康で安心して暮らせるとともに、県民の主体的な行動や個性・能力が発揮できる社会をめざしており、「人と人のつながりで自立と安心を育む」、「兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する」、「次代を支え挑戦する人を創る」の3つの将来像を掲げている。
- 「人と人のつながりで自立と安心を育む」では、家族の絆と世代や地域を超えた多様な縁に支えられながら、互いに認め合い、自立し安心した生活を営み、つながりの豊かさから幸せを実感できる社会をめざす。
- 「兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する」では、心と体の健康を礎に誰もが自分の個性を生かし、年齢、性別、障害の有無、国籍、文化の違いなどにかかわらず、社会の中で自分なりの役割を果たすことにより、生涯にわたって充実感や幸せを実感できる社会をめざす。
- 「次代を支え挑戦する人を創る」では、家庭・学校・地域など様々な主体の連携によって子どもを産み育てやすい環境づくりや特色ある教育が展開され、未来を担う子どもたちがふるさとへの愛着を持って生き生きと学び育ち、地域に関わる誰もが学びの喜びを実感し、地域や社会の持続と発展に貢献する社会をめざす。

(2) 主な取組と現状

① 人と人のつながりで自立と安心を育む

○ 家庭のつながりの再生や縁結びの支援

- ・ 県民一人ひとりが家族・家庭の大切さを考え、きずなを深めるとともに、地域で家庭を支える「ひょうご家庭応援県民運動」の展開を支援した。男性の家事・育児への参画を促進する講座を職域で開催し、希望する男性労働者が育児休業を取得しやすい職場環境づくりを促進するなど、父親（男性）の子育てや地域活動への参画の裾野を拡げるきっかけづくりを支援した。
- ・ 男女の出会いの場づくりのため、ひょうご出会いサポートセンター及び地域出会いサポートセンターで、個別のお見合い紹介を行うひょうご縁結びプロジェクトなどの出会い支援を行った。会員同士の成婚数は、平成27年4月で1,000組に到達した。また、結婚を契機とした兵庫県へのUJIターンの増加を図るため、平成27年8月に「ひょうご出会いサポート東京センター」を開設し、兵庫県への移住に興味のある東京近辺に在住の方などに対して出会いの支援を実施した。

- お父さん応援フォーラム等への参加者数（累計） [H26: 180人→H27: 295人/H29目標: 450人]
- ひょうご出会い・結婚支援事業による成婚数 [H26: 171件→H27: 153件/H29目標: 200件]
- ひょうご出会いサポートセンター事業によるお見合い開催数 [H26: 4,663回→H27: 4,915回/H29目標: 4,000回]

○ 高齢者が安心して暮らせる社会づくり

- ・地域包括ケアシステムの本格的な構築に向け、「兵庫県老人福祉計画」を推進するとともに、医療介護推進基金を活用し、介護人材確保と介護サービスの基盤強化を図った。高齢者の在宅生活を支援するため、市町が設置運営する地域総合支援センター（地域包括支援センター）の機能強化や生活支援コーディネーターの養成を推進した。生活援助員（LSA）等が24時間体制の見守り訪問・相談を行う「地域サポート型特養」、地域住民主体の生活支援サービスの提供を図る「地域サポート事業（安心地区）」など、高齢者を地域で支える仕組みづくりを進めた。
- ・認知症の人が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、全市町に認知症相談センターを設置するとともに、認知症疾患医療センターを核とした医療体制の構築を進め、認知症の早期発見、早期受診を推進した。また、若年認知症の人に対する市町の支援体制整備に取り組むとともに、認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワークの構築など認知症の人を支える地域づくりを推進した。

- 地域サポート型特養推進事業による特養認定数（累計）〔H26：28件→H27：44件／H29目標：72件〕
- サービス付き高齢者向け住宅の登録戸数（累計）〔H26：8,966戸→H27：10,224戸／H29目標：10,000戸〕
- 認知症相談センターの設置市町数（累計）〔H27：41市町（新規）／H29目標：41市町〕

○ 地域の安全安心の確保

- ・犯罪の未然防止に向けた地域住民との協働を進めるため、身近な異変を匿名でも通報できる「ひょうご地域安全SOSキャッチ電話相談」の運営、防犯カメラの設置補助、帰宅後の子どもの安全のために地域が一体となって見守る体制の構築を進めた。
- ・「ストップ・ザ・交通事故」県民運動を推進するとともに、平成27年4月1日に施行した「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に基づき、自転車の交通ルールの遵守、マナーの向上や保険加入の促進など自転車の交通安全対策を推進した。
- ・県内の公共の場所を誰もが安心して通行し、利用できるよう、公道等における通行人の往来に支障を来す客引き行為等を禁止する「客引き行為等の防止に関する条例」を平成27年4月1日に施行し、特に快適な環境を確保する必要がある地域の一切の客引き行為等を禁止する禁止地区の指定を行うとともに、指導員を設置し、県警や市町との連携のもと巡回、指導を実施した。
- ・消費者トラブル防止の強化として、消費生活相談の充実、改正景品表示法の啓発及び不当表示対策の強化などを進めるとともに、平成27年3月に策定した「兵庫県消費者教育推進計画」を踏まえ、ライフステージに応じ、様々な場で消費者学習の機会を提供できるよう、総合的な消費者教育を推進した。

- 防犯カメラ設置補助箇所数（累計）〔H26：1,106箇所→H27：1,498箇所／H29目標：2,441箇所〕
- 地域安全まちづくり推進員数（累計）〔H26：2,124人→H27：3,817人／H29目標：3,000人〕
- 自転車保険加入率〔H28.6：60.0%（新規）／H29目標：加入率のアップ〕

○ 自殺防止対策

- ・自殺を未然に防ぐため、夜間帯や土日祝日をカバーする「いのちと心のサポートダイヤ

ル」や、民間団体による電話相談員の養成支援により、24 時間電話相談体制を整備した。さらに、若者層対策として県内大学での自殺予防支援、壮年対策として職域における相談体制の充実など年齢層に応じた対応を強化したほか、ひょうごいのちところのサポーターの養成など地域における気づき、見守り体制の充実を図った。

- いのちところを支える相談職員の養成数(累計) [H26 : 63 人→H27 : 97 人/H29 目標 : 90 人]
- 県内の年間自殺者数 [H26 : 1, 147 人→H27 : 1, 037 人/H29 目標 : 1, 000 人以下]

② 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する

○ 医療体制の充実と医師・看護師確保対策

- ・救急医療、周産期医療機能等の充実を図ることにより、地域における高度急性期・高度専門医療の拠点病院として一層の貢献を果たすため、県立尼崎病院と県立塚口病院を統合再編し、県内公立病院最大規模の「兵庫県立尼崎総合医療センター」を平成 27 年 7 月 1 日に開院した。
- ・医療人材確保対策として、産科、小児科など特定の診療科やへき地での医師不足については、「地域医療支援センター」による医師不足の状況等の調査を踏まえ、修学資金の貸与により、へき地等勤務医師を養成するとともに、それらの医師を地域医療機関へ派遣した。また、地域医療支援医師の県採用、医師派遣等推進事業、結婚・出産等により離職した女性医師の再就業研修、大学と連携した特別講座の設置などを進めた。看護師の確保については、兵庫県ナースセンターによる看護職専門の無料職業紹介や再就業支援研修を推進した。また、より身近な地域でナースセンターによる就業支援が受けられるよう、県内 4 ヶ所に支所及びサテライトを開設し、看護職の専門員が、無料職業紹介や看護なんでも相談を実施した。

- へき地等勤務医師のへき地医療機関への派遣数 [H26 : 20 人→H27 : 21 人/H29 目標 : 24 人]
- 看護職員（常勤看護職員）離職率 [H26 : 13.3%→H27 : 12.0%/H29 目標 : 6.5%]

○ 健康ひょうごの推進

- ・県民一人ひとりの健康実現と活力ある健康長寿社会の実現を図るため、健康ひょうご 21 大作戦を推進し、特に「健康づくりチャレンジ企業」への支援を通じて、働き盛り世代の健康づくりを進めるなど、生活習慣病予防、こころの健康づくりに取り組んだ。また、「兵庫県口腔保健支援センター」を設置し、ライフステージに応じた歯・口腔の健康確保の取組を推進した。さらに、受動喫煙防止については、たばこの有害物質の影響を受けやすい子どもや妊婦の健康被害の防止に取り組むとともに、分煙措置を講じる施設管理者に対する支援等を行った。

- 健康づくりチャレンジ企業登録社数(累計) [H26 : 418 社→H27 : 680 社/H29 目標 : 1, 000 社]
- 健康体操の普及に取り組む企業・団体数 [H26 : 1, 482 社→H27 : 1, 735 社/H29 目標 : 2, 000 社]

○ スポーツの振興

- ・生涯スポーツの国際総合競技大会である「関西ワールドマスターズゲームズ 2021」に向け、県民誰もが参加できるオープン型大会「関西マスターズスポーツフェスティバル」

を開催した。また、2017年に開催する競技志向の高いシニア世代のスポーツの祭典「日本スポーツマスターズ2017兵庫大会」について開催準備委員会を設立し、具体的運営に取り組んだ。加えて、「感謝と友情」をテーマに第5回神戸マラソンを開催し、ランニングによる県民スポーツの振興を図るとともに、阪神・淡路大震災からの経験と教訓や兵庫の魅力発信した。

- ・2020年東京オリンピックの開催に向け、「第2期新兵庫県競技力向上事業」により、トップアスリート層の拡大、ジュニア選手の発掘・育成、指導者の資質向上を図るとともに、事前合宿招致に向け、県立・市町立スポーツ施設を紹介したホームページやパンフレットを作成し、内外に発信した。
- ・2020年に開催される東京パラリンピックに向け、本県からの一人でも多くの日本代表選手の輩出をめざし、障害者スポーツの普及啓発、スポーツを通じた障害のある方の社会参加を促進した。

- 体育施設の開放に取り組む公立学校の割合 [H26 : 70.5%→H27 : 71.5%/H29 目標 : 84%]
- 国民体育大会総合順位 [H26 : 11位→H27 : 12位/H29 目標 : 8位以内]

○ 芸術文化の創造と発信

- ・芸術文化立県ひょうごの実現をめざす芸術文化振興ビジョンに基づき、芸術文化センターや県立美術館、陶芸美術館、考古博物館、横尾忠則現代美術館などで多彩な公演・展覧会を開催した。今後も美術館・博物館に親しみ、楽しみを創出する取組を推進していく。
- ・芸術文化センターでは、10周年記念事業として、佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ「椿姫」などの自主企画公演や、芸術文化センター管弦楽団による記念演奏会ベートーベン「第九」を開催するなど多彩な事業を展開したほか、陶芸美術館では、開館10周年記念として、3季連続で「丹波焼」を取り上げる特別展を中心に、特別対談「10年の歩みと今後の丹波」などの様々な記念イベントを開催した。
- ・青少年の豊かな感性を育むため、「わくわくオーケストラ教室」や「ピッコロわくわくステージ」を実施するとともに、県民の芸術文化活動を活性化するため、「ひょうごのふるさと芸術文化活動推進事業」等による県民の活動支援や「伝統文化体験教室」、「子ども伝統文化わくわく体験教室」等による伝統・文化の普及・伝承等を図った。

- 芸術文化センター入館者数 [H26 : 48万人→H27 : 50万人/H29 目標 : 50万人]
- 県立美術館入館者数 [H26 : 743,891人→H27 : 563,316人/H29 目標 : 840,000人]
- 陶芸美術館入場者数 [H26 : 98,735人→H27 : 117,013人/H29 目標 : 150,000人]
- 子ども伝統文化わくわく体験教室の実施校数 [H27 : 30校 (新規) /H29 目標 : 60校]

○ 男女共同参画社会づくり

- ・男女がともに、人生のどの時期においてもいきいきと暮らせる男女共同参画社会の実現をめざし、「新ひょうご男女共同参画プラン 21」に基づき、県内事業所との協定締結を推進したほか、男女共同参画推進員の活動支援、男女共同参画リーダー養成講座の開催などを実施した。また、女性のチャレンジを支援するため、女性リーダー登用促進に向けた企業向け研修会を実施した。

- ・「新ひょうご男女共同参画プラン21」の後継計画として、平成28年3月に第3次兵庫県男女共同参画計画である「ひょうご男女いきいきプラン2020」を策定し、男女共同参画社会の形成に向け、さらなる取組を展開している。

- 男女共同参画社会づくり協定締結事業所数(累計) [H26:1,122事業所→H27:1,175事業所/H29目標:1,120事業所]
- 男女共同参画推進員の設置数 [H26:1,326人→H27:1,387人/H29目標:1,500人]

○ 障害のある人の自立支援とユニバーサル社会づくり

- ・障害者が地域の中で自立した生活ができるよう、高齢障害者に対するケアマネジメントを充実し、障害福祉サービスから介護保険サービスへの円滑な移行を図るとともに、相談支援専門員等の質的向上による相談支援体制の充実強化、グループホームの新規開設支援などに取り組んだ。また、広く寄附を募り、訓練用筋電義手の確保及び貸出等を行う「小児筋電義手バンク」の運営により、上肢を欠損した子どもの発育に有用な筋電義手の普及を図った。
- ・平成28年度からの障害者差別解消法の施行を控え、法制度の理解促進や普及啓発を行ったほか、法律的観点からの電話相談等を実施した。
- ・発達障害児の診断・診療から療育までの支援を一体的に提供する「県立こども発達支援センター」を運営するとともに、乳幼児健康診査の評価、5歳児発達相談、認定こども園における障害児保育の支援、福祉施設や企業等における「発達障害サポーター」の養成など、発達障害児の早期発見や発達障害者の支援体制の強化に取り組んだ。
- ・「福祉のまちづくり条例」に基づき、バリアフリー整備基準に適合した施設整備を推進するとともに、ひょうご県民ユニバーサル施設の認定を行うなど、福祉のまちづくりを推進した。また、「譲りあい感謝マーク」や「兵庫ゆずりあい駐車場制度」の普及、みんなの声かけ運動の定着、一定規模以上の県主催行事への手話通訳及び要約筆記者の配置などの取組を行った。

- 障害者グループホーム等の利用者数(累計) [H26:2,470人分→H27:2,711人分/H29目標:3,154人分]
- インターネットによる授産商品の販売額 [H26:6,985千円→H27:16,067千円/H29目標:2,600千円]
- 発達障害サポーター養成数 [H26:1,436人→H27:3,742人/H29目標:6,800人]
- みんなの声かけ運動推進員数(累計) [H26:4,586人→H27:4,627人/H29目標:5,930人]

③ 次代を支え挑戦する人を創る

○ 子どもを生き育てやすい環境の整備

- ・平成27年4月から本格実施された子ども・子育て支援新制度に基づき、市町への財政支援を行うとともに、安心して出産・子育てできる環境を整備するため、安心こども基金を活用した保育所の緊急整備や認定こども園の設置推進等による保育サービスの量の確保に努めた。
- ・保育の質の向上に向け、潜在保育士の発掘及び就職支援や病児・病後児保育の推進を図ったほか、子育て中の親の悩み相談などを行う乳幼児子育て応援事業を実施した。
- ・子育ての経済的負担の軽減を図るため、中学3年生までの子どもの入院及び通院医療費に助成を行った。多子世帯の保育料に対する補助については、子ども・子育て支援新制度に対応し、小規模保育事業など地域型保育事業を対象に加えた。

- ・地域ぐるみの子育てを広げるため、ファミリー・サポート・センター、まちの子育てひろば、子どもの冒険ひろばの設置を進めるとともに、幼稚園・保育所等も活用した放課後児童クラブの開設支援により、放課後等の居場所づくりを進めた。

- 認定こども園の認可・認定数(累計) [H26 : 230 施設→H27 : 322 施設/H29 目標 : 444 施設]
- 乳幼児子育て応援事業実施保育所数(累計) [H26 : 456 箇所→H27 : 478 箇所/H29 目標 : 500 箇所]
- まちの子育てひろば(累計) [H26 : 2, 168 箇所→H27 : 2, 147 箇所/H29 目標 : 2, 210 箇所]
- 放課後児童クラブ開設数(累計) [H26 : 873 箇所→H27 : 990 箇所/H29 目標 : 1, 350 箇所]

○ ふるさとを学ぶ教育の展開

- ・豊かな心とふるさと意識を育むとともに、自立と共生の能力を備えた社会人としての基礎を培うため、幼児期からの環境学習を推進する「ふるさと環境体験推進事業」、小学校3年生の「環境体験事業」、同5年生の「自然学校推進事業」、中学校1年生の「青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～」、同2年生の「地域に学ぶ『トライやる・ウィーク』推進事業」、高校生の「高校生ふるさと貢献活動事業～トライやる・ワーク～」など、発達段階に応じた体系的な体験教育を推進した。また、身近な地域での社会体験や豊かな自然に触れる体験を提供する「ひょうごっ子・ふるさと塾」を実施した。
- ・兵庫県を語るうえで欠くことのできない歴史上のテーマや、地域の特色を象徴する事象など、重要で広域的なテーマについて体系的に調査研究するために、県立歴史博物館に「ひょうご歴史研究室」を新設した。
- ・心の教育の充実強化として、兵庫版道徳教育副読本や道徳教育推進地域・推進校での取組をまとめた実践事例集を活用するとともに、スクールカウンセラーの配置等、いじめの対応をはじめとする「いのちの大切さ」を育む教育を展開した。

- 高校生ふるさと貢献活動への県立高校生の参加割合 [H26 : 94%→H27 : 96.7%/H29 目標 : 100%]
- スクールカウンセラーの小学校への配置の拡充 [H26 : 110 校→H27 : 113 校/H29 目標 : 130 校]

○ 魅力ある学校づくり

- ・子どもたちの高校選びの選択肢を確保するとともに、魅力ある高校づくりをさらに推進・発展させるため、公立高校の通学区域を16学区から5学区に再編し、平成27年度入学選抜から実施した。これまでの自由学区については、市区町単位の隣接区域として見直し、双方向受検を可能とした。
- ・確かな学力を育成するため、小学校5・6年生における学力向上や小学校から中学校への円滑な接続を図る「兵庫型教科担任制」の取組を全県で実施した。教員の指導力や児童生徒の理科への興味・関心を高める「サイエンス・トライやる事業」、地域人材を活用した「ひょうごがんばりタイム」(放課後における補充学習)、家庭での学習習慣が十分身についていない子どもたちに対し、地域人材のネットワークを活用して学校管理外での学習支援を行う「地域未来塾」等を実施した。
- ・生徒の多様な学習ニーズに応える高等学校教育の充実を図るため、「インスパイア・ハイスクール事業」の実施により、理数教育、国際化への対応、スペシャリストの育成、キャリア教育等、各校の魅力・特色を明確に示した重点テーマに基づく魅力ある県立高校づ

くりを推進した。また、ICT の利活用による学力向上の推進や学校図書館の活性化を図り、高校生の読書量を増やす取組を推進した。

- 公立小学校高学年での兵庫型教科担任制の実施 [H26 : 全県実施→H27 : 全県実施/H29 目標 : 全県実施]
- 副読本「世界と日本」を世界史の授業等で活用する生徒の割合 [H26 : 85.9%→H27 : 94.6%/H29 目標 : 100%]
- ICT 環境整備事業等による校内 LAN 整備率 [H26 : 96.1%→H27 : 96.3%/H29 目標 : 100%]

○ 青少年の健全育成

- ・様々な体験学習や寮での共同生活等を通して、不登校、中途退学等で進路を見出すのが困難な青少年の社会的自立を支援する「県立神出学園」及び「県立山の学校」において、生徒が地域とのつながりを深め、社会性を高めていけるボランティア活動等を実施した。また、ひきこもり等社会生活を円滑に営むうえで困難を有する青少年を支援するため、兵庫ひきこもり相談支援センターにおいて電話相談や訪問支援、相談会を実施するとともに、地域ブランチを拠点に県健康福祉事務所等とひきこもりの地域支援ネットワークを構築した。
- ・インターネット上の有害情報への対策を図るとともに、青少年愛護条例を改正し、青少年のインターネットの利用に関する基準（ルール）づくりの支援についての努力義務を定め、インターネットへの過度の依存を防止するための取組を進めた。

- ひょうごユースケアネット支援機関ナビ登録件数(累計) [H26 : 220 件→H27 : 221 件/H29 目標 : 250 件]
- 兵庫ひきこもり相談支援センターほっとらいん相談の年間相談件数 [H26 : 1,496 件→H27 : 1,371 件/H29 目標 : 1,250 件]

2 しごとと活性社会

(1) めざすべき社会像

- 「しごとと活性社会」では、グローバル化に対応した技術革新・人材育成の拠点づくりや、高齢社会に対応して地域を持続させる生活サービス産業の展開を促進するとともに、多様で柔軟な働き方が実現できる創造的な産業社会の実現をめざし、「未来を拓く産業の力を高める」、「地域と共に持続する産業を育む」、「生きがいにあふれたしごとを創る」の3つの将来像を掲げている。
- 「未来を拓く産業の力を高める」では、世界最先端の科学技術基盤やオンリーワン技術を持つものづくり産業の集積を核に、国内外の創造的な企業や人材が集まるとともに、アジアをはじめとする世界とのつながりが強化され、国際的な産学・産産連携の拠点が形成されている社会をめざす。
- 「地域と共に持続する産業を育む」では、地域資源を生かした個性ある地場産業やツーリズム、力強い農林水産業が、地域に活気をもたらし、身近な地域商業や、高齢化に対応した新しい生活産業が活性化し、住民の暮らしを豊かにしている社会をめざす。
- 「生きがいにあふれたしごとを創る」では、一人ひとりが持ち味を発揮し、個々の生きがいに合わせた活躍の場を行き来する複線型のライフスタイルが実現するとともに、人と人、地域と地域のつながりを生み出す新しいしごとが広がっている社会をめざす。

(2) 主な取組と現状

① 未来を拓く産業の力を高める

○ 最先端科学技術基盤の活用と産学官連携による成長産業の創出

- ・大型放射光施設「SPRING-8」、スーパーコンピュータ「京」など最先端科学技術基盤を活用したイノベーションの創出に向け、放射光ナノテク研究所や高度計算科学研究支援センターを拠点に産業利用を推進し、特に、SPRING-8においてエネルギー分野を中心に放射光利用企業を支援していくため、ビームライン(BL08)の高度化を行った。また、産業界専用のFOCUSスパコンを活用した企業等の研究を支援した。さらに、成長産業を育成するため、兵庫県COEプログラム推進事業において、先端医療や次世代エネルギー・環境等に係る産学官連携での研究開発を支援した。
- ・本県を含む関西圏で区域指定を受けた国家戦略特区や国際戦略総合特区の規制緩和等について、研修に係る在留期間の特例を活用した国外からの医師等の受入による1年超の粒子線治療研修実施など、再生医療の実現、医療機器・医薬品や新エネルギー関連技術の開発等における国際イノベーション拠点の形成に向けた取組を支援した。

FOCUSスパコン利用企業数 [H26 : 143 社→H27 : 160 社/H29 目標 : 170 社]

兵庫県COEプログラムによる産学官共同研究参加企業数 [H26 : 17 社→H27 : 13 社/H29 目標 : 13 社]

○ 戦略的な企業立地と本県企業の海外展開支援

- ・地域創生を進めるとともに活力あるしなやかな産業構造を構築するため、産業集積条例を「産業立地条例」に改正し、立地支援措置を拠点地区以外の区域にも拡大したほか、本社機能立地や既存企業の新展開事業を支援した。また、ひょうご・神戸投資サポートセンターにおける企業立地のワンストップサービスを提供した。
- ・県内企業の海外展開を支援するため、「ひょうご海外ビジネスセンター」、「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を運営するとともに、海外事務所の経済活動支援機能を強化した。また、新興国等との経済交流を強化するため、経済連携を通じた環日本海・アジア等との友好交流を行った。

産業立地条例等に基づく企業・研究所の立地件数 [H26 : 134 社→H27 : 178 社/H29 目標 : 140 社]

ひょうご海外事業展開支援プロジェクトにおける相談対応件数 [H26 : 164 件→H27 : 432 件/H29 目標 : 150 件]

○ オンリーワン企業の育成

- ・新たな技術開発や新分野への事業展開を支援するため、県立工業技術センターによる企業への技術指導・技術支援を行ったほか、ものづくり支援センターによる共同研究プロジェクトのコーディネートを通じて、産学官連携を促進した。
- ・地域に根ざした中小企業の成長を支援するため、特色ある地場産品等を活用した事業等を「キラリひょうごプロジェクト」として選定し、概要・魅力を情報発信するとともに、投資型クラウドファンディングを活用した資金調達等を支援した。
- ・中小企業の経営力強化に必要な人材の確保に向けて、専門人材に係る相談窓口として、平成27年12月に「ひょうご専門人材相談センター」を設置した。
- ・技術・サービス・デザイン等の幅広い分野において、ビジネスパートナーや事業連携等

の可能性を発掘する異業種交流の取組を支援し、中小企業の連携による新商品開発や販路開拓等を促進した。また、「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」や「国際フロンティア産業メッセ」の開催等を通じ、国際的な技術・ビジネス交流による次世代成長産業の振興に取り組んだ。

- 工業技術センターにおける共同・受託研究等件数 [H26 : 779 件→H27 : 831 件/H29 目標 : 280 件]
- ひょうごNo.1 ものづくり大賞受賞企業 (累計) [H26 : 15 社→H27 : 19 社/H29 目標 : 41 社]
- 国際フロンティア産業メッセの参加者数(累計) [H26 : 52, 319 人→H27 : 81, 774 人/H29 目標 : 100, 000 人]

② 地域と共に持続する産業を育む

○ 地場産業等地域経済の活性化とものづくり技能の継承

- ・地場産業の高付加価値化を図るため、活力ある民間の取組・ノウハウを活用した事業を共同で実施することにより、県内中小企業の人材確保及び産地の活性化を推進する「民間活力によるひょうご企業魅力アップ事業」に取り組んだ。また、意欲ある産地企業等が単独又は他の産地企業等と連携して行う新製品・新技術開発、販路開拓等の取組を支援するとともに、産地組合等が行うブランド力強化や海外展開のための新技術開発等の取組を支援した。加えて、地場産品のマーケット対応力を強化するため、デザイナー等との連携による新製品開発や海外でのインターンシップ等を支援した。
- ・職業訓練に加え、中学生等のものづくりへの関心を高めるため、ものづくり大学校等において、本格的なものづくり体験の機会を提供した。
- ・中小企業の振興が県政の最重要課題の一つであることを再認識し、県が先頭に立ち積極的に取り組む目的で、「中小企業の振興に関する条例」を平成27年10月に制定した。

- 地場産業ブランド力強化・海外展開支援事業による支援件数 [H26 : 9 件→H27 : 9 件/H29 目標 : 8 件]
- ひょうごものづくりクリエイティブビジネス販路開拓支援事業による支援件数 (累計 : H26～) [H26 : 12 件→H27 : 18 件/H29 目標 : 30 件]
- ものづくり体験学習実施数 [H26 : 13, 306 人→H27 : 13, 776 人/H29 目標 : 10, 000 人]

○ 商店街等のにぎわいづくり

- ・消費需要を喚起し、商店街の販売促進を図るため、県内の商店街等が取り組む期間限定の買い物ポイント事業に対して支援を行う「商店街買い物ポイント事業」を実施したほか、外国人観光客の新たな需要開拓を推進するため、外国人観光客接客マニュアルや外国語を併記した商店街マップの作成等を支援した。
- ・空き店舗の増加により衰退する商店街とその商圏となる住宅地の活性化を図るため、まちなか再生協議会の設立及びまちなか再生計画の策定等を支援した。

- 商店街元気づくり事業、商店街整備事業による支援件数 (累計) [H26 : 175 件→H27 : 301 件/H29 目標 : 450 件]
- 空き店舗の賃貸契約件数及び空き店舗を活用した取組への支援件数 (累計) [H26 : 175 件→H27 : 260 件/H29 目標 : 450 件]

○ 地域資源を生かしたツーリズムの推進

- ・交流人口の拡大と地域の活性化を図るため、「あいたい兵庫キャンペーン 2015」において、“温泉プラスワンツーリズム”をテーマに、国内有数の温泉地に滞在しながら、多彩

な兵庫の魅力を6つのカテゴリー（歴史・文化、自然・景観、スポーツ、ものづくり、グルメ、イベント）に分けて満喫してもらい、「ひょうごの温泉を巡るご褒美旅」を提案した。また、本県特産品の購入と県内誘客を促進するため、キャンペーン期間中に県内温泉地に宿泊した旅行者に対し、宿泊施設や周辺お土産店等で利用できるお土産購入券を進呈するとともに、特産品販売店でのお買い物券付き販売を実施した。

- ・本県への外国人旅行者の増加に向け、観光協会等が実施する無料Wi-Fiスポット、多言語案内看板の設置やトイレの洋式化等観光客受入促進のための基盤整備を支援したほか、ミラノ国際博覧会を契機とした海外現地プロモーションの実施や「ミシュランガイド兵庫2016特別版」の英語ウェブサイト及びスマートフォンサイトを作成し、外国人向けに無料公開することにより、兵庫の食の魅力を海外に発信した。

- 新たな観光資源数（累計）〔H26：7件→H27：10件／H29目標：13件〕
- 産業ツーリズム等施設コース数（累計）〔H26：317コース→H27：319コース／H29目標：320コース〕
- 海外からの観光客数〔H26：83.2万人→H27：128.3万人／H29目標：100万人〕

○ ブランド力の向上や担い手の育成による農林水産業の振興

- ・高品質で安全安心な農産物づくりの展開に向け、野菜産地革新的機械化システムの導入支援や酒米増産モデル確立事業、卸売市場の活性化支援を行ったほか、環境創造型農業の推進、「兵庫県認証食品」の流通拡大に取り組んだ。
- ・海外でのプロモーション活動を積極的に行い、ミラノ国際博覧会では“体感！ひょうごの「食」”をテーマに、神戸ビーフや灘五郷の酒など、ひょうご五国の魅力を全世界へ発信したほか、神戸ビーフ輸出拡大のため、対欧米・香港等向けの輸出認定食肉センター整備を支援した。また、県産農林水産物の県内消費を拡大するため、直売活動を促進するとともに、県産木材利用促進の普及啓発・情報発信拠点として、神戸ハーバーランドに「ひょうご木づかい王国学校」を開校した。
- ・県産農林水産物の新たな価値の創造に向け、農林漁業者と様々な事業者・研究機関の異業種連携を促進する『「農」イノベーションひょうご』や「ひょうご元気な『農』創造事業」を推進した。
- ・漁業生産の安定に向けて、第2の鹿ノ瀬など、産卵や稚魚の育成に必要な増殖場や魚介類の生息域である魚礁・漁場の整備を進めた。また、貝類養殖に関する新技術の普及促進を図るとともに、県産極上アサリ養殖の生産拡大に取り組んだ。
- ・農業の担い手育成のため、農地中間管理事業による担い手への農地の集積・集約化の推進や、農業経営の法人化や集落営農の組織化に対する支援、経営発展をめざす認定農業者、集落営農組織に対する農業研修等を実施した。また、新規就農者を確保するため、就農支援センターにおける相談・支援を実施するとともに、「農業施設貸与事業」の実施により、就農開始時に負担となる初期投資の軽減と設備保有のリスク軽減を図った。

- 卸売市場の品質管理高度化マニュアル策定率〔H26：46%→H27：58%／H29目標：85%〕
- 県産農林水産物の輸出品目数（累計）〔H26：25品目→H27：28品目／H29目標：12品目〕
- 農産物直売所の参加農家数〔H26：23,957人→H27：23,985人／H29目標：27,100人〕
- 増殖場の整備済箇所数（累計）〔H26：36箇所→H27：37箇所／H29目標：40箇所〕
- 集落営農組織化集落数（累計）〔H26：1,066集落→H27：1,096集落／H29目標：1,238集落〕

③ 生きがいにあふれたしごとを創る

○ 若年者の安定した雇用の拡充

- ・人口流出が続いている若者のしごと創出に向け、兵庫で就職を希望する若者を積極的に採用する企業と学生とのマッチングを推進する「ひょうご応援企業就職支援事業」や、首都圏での企業説明会を実施するとともに、対象地域の中小企業の採用に係る経費を支援する「ふるさと企業就職活動支援事業」により UJI ターンによる就職を促進した。
- ・若年者の技能を高め、就業の拡大につなげるため、若者しごと倶楽部での就職支援に加え、「大学生インターンシップ推進事業」により中小企業の魅力発見を促すとともに、学卒未就労者等を対象に、企業面接準備研修や就労体験等を通じて県内製造業・中小企業等の魅力を伝え、正規雇用につなげる「ひょうご若者就労支援プログラム」を実施した。また、年長フリーターへの企業説明会、ニート支援に関する各機関のネットワーク会議の開催に加え、ニート等の就業体験事業を行う事業主に対し事業の立ち上げ、拡充を支援するなど、不安定就労が続く若年層の就労支援に取り組んだ。

- 離職者等再就職訓練事業、実習・産学連携養成事業・委託訓練による就職者数(累計) [H26: 5,090 人→H27: 6,561 人/H29 目標: 11,500 人]
- ひょうご・しごと情報広場の運営・若者しごと倶楽部を通じた就職者数(累計) [H26: 3,097 人→H27: 4,868 人/H29 目標: 7,500 人]
- 短期職場体験就業事業、大学生インターンシップ推進事業、ひょうご若者就労支援プログラム等による就業体験者数(累計) [H26: 1,260 人→H27: 1,971 人/H29 目標: 2,500 人]

○ 女性の再チャレンジを促す就労支援の充実

- ・再就業を希望する女性を支援するため、男女共同参画センターの「女性就業相談室」において、ハローワークと連携した職業紹介やキャリアコンサルタント等による個別相談を行った。また、出産や育児等により離職した女性に対し、再就職に必要な知識やスキルを得るための教育訓練の受講を支援した。
- ・地域経済の活性化を図るため、有望なビジネスプランを有し、県内で起業をめざす女性起業家を支援した。
- ・「ひょうご女性の活躍推進会議」を設置し、女性の活躍企業の表彰や出前相談・研修講師の派遣等を行った。

- 女性就業相談室の支援による就職者数(累計) [H26: 273 人→H27: 475 人/H29 目標: 900 人]
- 女性起業家支援事業による新たなビジネスプラン開発等への補助件数(累計) [H26: 41 件→H27: 71 件/H29 目標: 100 件]

○ 中高年齢者の就業機会の拡大

- ・高齢者の起業・就業を促進するため、有望なビジネスプランを有し、県内で起業をめざすシニア起業家を支援したほか、高齢者等が特別養護老人ホーム等で就労するための介護技術の資格取得を支援した。また、生きがいしごとサポートセンターにおいてコミュニティ・ビジネスでの起業・就業を支援した。

- 生きがいしごとサポートセンターを通じた高齢者等の就業者数(累計) [H26: 494 人→H27: 816 人/H29 目標: 1,250 人]
- 高齢者コミュニティ・ビジネス立ち上げ支援件数 [H26: 11 団体→H27: 12 団体/H29 目標: 30 団体]

○ 障害者の就業促進

- ・障害者の雇用・就業を促進するため、障害者の雇用に配慮した特例子会社の設立支援に加え、簡易な就業体験の場の提供や企業に対する相談支援を行った。また、企業への通勤が困難な障害者の在宅での就労を支援するため、IT技術を活用した在宅ワークの推進を行った。
- ・障害者法定雇用率達成に向け、障害者就業・生活支援センターに推進員を配置し、就職先の開拓と定着支援を行った。また、障害者工賃の向上を図るため授産商品の販路拡大等を支援するとともに、一般就労への移行を支援した。

- 障害者雇用率 [H26 : 1.90%→H27 : 1.97%/H29 目標 : 2.00%]
- 障害者就職拡大推進事業等による就職者数 (累計) [H26 : 1,199 人→H27 : 1,589 人/H29 目標 : 2,509 人]

○ ワーク・ライフ・バランスの推進

- ・ワーク・ライフ・バランス (WLB) のさらなる普及に向け、ひょうご仕事と生活センターにおいて、普及啓発・情報発信、相談・研修に取り組むとともに、WLB 推進のための職場環境整備を行う企業に対する支援、育児・介護等の理由により離職した者を雇用した事業主や育児休業・介護休業取得者の代替要員を確保する中小企業に対する支援を行った。

- 仕事と生活の調和推進企業宣言登録企業数(累計) [H26 : 808 社→H27 : 1,138 社/H29 目標 : 1,000 社]
- 中小企業育児・介護代替確保支援事業助成件数 [H26 : 116 件→H27 : 113 件/H29 目標 : 100 件]

3 環境優先社会

(1) めざすべき社会像

- 「環境優先社会」では、兵庫の自然特性を生かし、人の営みと自然が調和した健康で快適な生活と社会・経済の発展とが両立する持続可能な循環型社会の構築をめざし、「人と自然が共生する地域を創る」、「低炭素で資源を生かす先進地を創る」、「災害に強い安全安心な基盤を整える」の3つの将来像を掲げている。
- 「人と自然が共生する地域を創る」では、自然環境の再生、保全を進めつつ、生物多様性を確保するとともに、人が豊かな自然と共生するライフスタイルが定着し、そこから得られる恩恵を有効に活用できる持続可能な関係が構築されている社会をめざす。
- 「低炭素で資源を生かす先進地を創る」では、地域での省エネルギー・創エネルギーへの様々な主体による取組が進み、低炭素で環境負荷の低い社会・経済の構造が確立されているとともに、エネルギーや資源の自給が進み、持続力が高まる社会をめざす。
- 「災害に強い安全安心な基盤を整える」では、自然本来の防災・減災機能を生かしつつ、安全安心を支える社会基盤の整備や多様な主体が参画する地域ごとの共助の防災システムの充実、一人ひとりの防災意識の向上により、災害や危機に強い安全安心な地域づくりが広がっている社会をめざす。

(2) 主な取組と現状

① 人と自然が共生する地域を創る

○ 多様な主体の連携による自然環境の保全・再生・創造

- ・森林の持つ公益的機能の高度発揮を図るため、「新ひょうごの森づくり(第2期対策)」を推進し、森林ボランティアリーダーの養成や、企業の森づくりの推進など多様な主体による森づくり活動を推進した。
- ・友好関係にある広東省との間で大気汚染対策に係る技術協力を強化するため、広東省環境保護庁職員等を招き、県の大気汚染対策、PM2.5 測定・発生源解析、県内企業の先進事例等について研修を行うなど、具体的な技術交流・協力に取り組んだ。
- ・瀬戸内海の環境保全については、本県を中心とした、瀬戸内海環境保全知事・市長会議による瀬戸内海再生への様々な取組の結果、瀬戸内海環境保全特別措置法の一部を改正する法律が平成27年10月2日に公布・施行され、「豊かで美しい里海づくり」が本格的に始動することとなった。

- 森林ボランティアリーダー数(累計) [H26: 688人→H27: 712人/H29 目標: 800人]
- 企業の森づくり活動参画企業数(累計) [H26: 27社→H27: 31社/H29 目標: 40社]
- 公共用水域におけるBOD、CODの環境基準達成状況 [H26: 58水域→H27: 58水域/H29 目標: 66水域]

○ 生物多様性の保全と野生動物の保護管理

- ・県内のNPO等の活動の中からモデルとなる活動を「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」として選定し、PRすることにより、県民の参画を促進するとともに、兵庫県版レッドデータブックの改訂作業に取り組んだ。
- ・野生動物による農林業被害を減少させるため、シカ被害対策については、広域的な捕獲対策やシカ肉の有効活用に取り組むとともに、被害が深刻化するイノシシについて地域に応じた有効な対策を確立するため、新たに淡路島と六甲山でモデル事業を実施した。特に都市部に出没するイノシシと人の問題をテーマにした国際シンポジウムを開催し、今後の野生鳥獣対策の方向性を議論した。また、狩猟体験会の開催支援などにより狩猟者育成を推進した。

- 野生動物育成林整備面積(累計) [H26: 2,171ha→H27: 2,664ha/H29 目標: 3,012ha]
- シカの捕獲頭数(累計) [H26: 187,946頭→H27: 233,515頭/H29 目標: 298,000頭]

○ 資源循環型林業の推進、農地の持つ多面的機能の維持・保全

- ・木質バイオマス発電向け燃料を含めた木材需要に対応するため、「新ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づき、低コスト原木供給地や林内路網の整備、高性能林業機械の導入を進めるとともに、公共施設や住宅への県産木材の利用を促進した。
- ・農地の持つ多面的機能の一層の発揮を図るため、総合治水における「流域対策」の一環として「田んぼダムセキ板1,000枚配布大作戦」を展開し、水田を活用した雨水の一時貯留を推進するとともに、雨水貯留に取り組む農村地域と下流の都市住民とのモデル的な交流活動を支援した。

- 林内路網延長(団地内)(累計) [H26: 139km→H27: 350km/H29 目標: 504km]

② 低炭素で資源を生かす先進地を創る

○ 環境負荷の低減に向けた取組の推進

- ・CO₂排出の少ないライフスタイルへの転換を促進するため、家庭部門について、診断士が各家庭に合わせた具体的なCO₂削減プランを提案する「うちエコ診断」を実施した。
- ・都市緑化を推進するため、住民団体等が実施する緑化活動を支援する「県民まちなみ緑化事業」を推進するとともに、第2期事業（平成23～27年度）の評価・検証を行った。
- ・節電の着実な実施のため、県民や事業者への要請をはじめとした節電対策に取り組んだことから、夏の節電目安である平成22年度夏比13%減を超える約17%の節電を達成した。

- 県民まちなみ緑化事業による緑化・芝生化合計（累計）〔H26：112.4ha→H27：126.0ha/H29目標：120ha〕
- 住宅用創エネルギー・省エネルギー設備設置特別融資件数（累計）〔H26：814件→H27：895件/H29目標：1,609件〕

○ 再生可能エネルギー等の導入拡大

- ・再生可能エネルギーの導入を促進するため、再生可能エネルギー相談支援センターによる指導・助言や、住宅用太陽光発電設備等の創エネルギー・省エネルギー設備導入に対する低利融資を行ったほか、事業化までのステップが多く、導入コストが高額となるが安定した発電量や収益が見込める小水力発電について、住民協働による小水力発電復活プロジェクトにより、地域住民の立ち上げ時の取組等を支援した。
- ・木質バイオマス発電については、FIT（固定価格買取制度）を活用した県内初の木質バイオマス発電施設が、(株)日本海水赤穂工場において平成27年3月に稼働するなど、県内未利用木材の活用が進みつつある。
- ・再生可能エネルギーの普及拡大と企業庁保有資産の有効活用を図るため進めている、大型太陽光メガソーラープロジェクトについて、平成28年2月の神谷ダムと平荘ダムの発電開始により、整備を進めてきた12ヶ所の太陽光発電所が全て稼働した。
- ・なお、「第3次兵庫県地球温暖化防止推進計画」で掲げた、平成32年度末までに県内の再生可能エネルギーを新たに100万kW導入する目標に対し、平成27年9月末で新たな導入量が約102万kWとなり目標を達成した。今後目標の見直しを行い、さらなる導入促進を図る。

- 再生可能エネルギー相談支援センターにおける指導・助言件数（累計）〔H26：105件→H27：171件/H29目標：215件〕
- 自治会、NPO、小規模集落等が実施する再生可能エネルギー導入等への融資・助成件数（累計）〔H26：12件→H27：30件/H29目標：60件〕
- 企業庁所管施設による太陽光発電出力〔H26：23MW→H27：29.6MW/H29目標：29.6MW〕

○ 持続的に資源を循環させるしくみづくり

- ・循環型社会を構築するため、一般廃棄物排出量の減量化とともに、容器包装や使用済小型家電等の回収による廃棄物の品目ごとの資源化・再生利用を促進した。
- ・「クリーンアップひょうごキャンペーン」を展開し、県内各地で団体、地域住民、行政等が連携して、清掃等環境美化活動やポスターの配布、街頭でのキャンペーンを実施した。

- 容器包装廃棄物分別収集率〔H26：37%→H27：39%（速報値）/H29目標：50%以上〕
- クリーンアップひょうごキャンペーン参加者数（累計）〔H26：1,260千人→H27：1,890千人/H29目標：3,000千人〕

③ 災害に強い安全安心な基盤を整える

○ 南海トラフ巨大地震等に備える基盤整備

- ・南海トラフ地震・津波の被害軽減のため、めざすべき減災社会像や、被害軽減に向け具体的に取り組む減災アクションを示した「南海トラフ地震・津波対策アクションプログラム」を平成27年6月に策定した。また、津波避難が円滑に行われるよう、東日本大震災による教訓や知見等を反映させた「市町津波避難計画策定の手引き」を平成28年2月に策定した。
- ・本県沿岸部の特性に応じた効果的かつ効率的な津波対策を計画的に推進するため、防潮堤等の沈下対策を追加するとともに、対策後の浸水想定区域の縮減効果をとりまとめた「津波防災インフラ整備計画」を平成27年6月に策定した。
- ・南海トラフ地震等の発生に備え、引き続き住宅と建築物の耐震化を計画的に進めるため、平成28年3月に「兵庫県耐震改修促進計画」を改定し、新たな目標や施策を設定した。また、民間の大規模多数利用建築物等の耐震診断、耐震改修工事等に対して市町と協調して支援した。

- 防潮堤の補強延長(累計) [H26 : 2.4 km→H27 : 3.5km/H29 目標 : 6.2km]
- 県立学校施設の耐震化率 [H26 : 90.0% (140校) →H27 : 95.5% (147校) /H29 目標 : 100% (155校)]
- わが家の耐震改修促進事業の補助実施市町数 [H26 : 35市町→H27 : 41市町/H29 目標 : 41市町]

○ 土砂災害・風水害に強い地域づくりの推進

- ・平成26年8月豪雨による土砂災害を踏まえ、平成27年3月に「第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画」を拡充し、治山ダムや砂防えん堤、緊急防災林の整備量を増やすとともに、整備を前倒しするなど予防対策を強力に推進した。また、風水害に備えるため、千種川・佐用川、法華山谷川、前山川等の再度災害防止対策や、武庫川や船場川調節池等の整備に加え、校庭貯留やため池の治水活用などの流域対策を推進した。
- ・減災のための情報発信の充実を図るため、県ホームページで公開しているCGハザードマップのスマートフォン専用サイトを開設したほか、地域別土砂災害危険度情報(5kmメッシュ情報)に1kmメッシュ情報を加えた。また、土砂災害特別警戒区域の指定を推進し、平成27年度末時点で指定数を511箇所とした。

- 治山ダムの整備数(累計) [H26 : 895基→H27 : 1,018基/H29 目標 : 1,231基]
- 砂防えん堤等着手箇所数(累計) [H26 : 314箇所→H27 : 386箇所/H29 目標 : 500箇所]
- 緊急防災林(災害緩衝林)整備面積(累計) [H26 : 134ha→H27 : 260ha/H29 目標 : 378ha]

○ 自助・公助・共助による地域防災力の強化

- ・地域防災の担い手となる自主防災組織等のリーダーの育成のため、ひょうご防災リーダー講座を実施した。また、県が養成したひょうご防災リーダーの活動に対する市町支援を促すなど、地域の防災力向上を推進した。
- ・南海トラフ地震の津波災害等に的確に対応できる自主防災体制を整備するため、自主防

災組織が行う避難訓練の実施を支援するとともに、福祉関係者と連携し災害時要援護者支援の訓練を行う団体への支援を拡充した。

- ・被災者の生活基盤の早期回復と被災地域の早期復興に寄与する相互扶助の仕組みである兵庫県住宅再建共済制度の普及を図るため、制度創設 10 周年を契機に、記念大会の開催をはじめ加入促進の取組を推進した。

- ひょうご防災リーダーの養成数(累計) [H26 : 1,815 人→H27 : 2,025 人/H29 目標 : 2,000 人]
- 福祉避難所の指定市町数(累計) [H26 : 40 市町→H27 : 40 市町/H29 目標 : 41 市町]
- 住宅再建共済制度加入率 [H26 : 9.2%→H27 : 9.3%/H29 目標 : 15.0%]

○ 大災害に備えた広域防災体制の整備

- ・東日本大震災被災地への継続的な支援のため、本県の職員を派遣するとともに、住民主体のまちづくり、コミュニティ再生支援のための専門家の派遣を行った。
- ・関西広域連合においては、広域防災事務を担当する県として、南海トラフ地震を中心とした大規模広域災害を想定した広域対応を推進し、南海トラフ地震応急対応マニュアルの策定等に取り組んだ。また、災害に備えた広域応援体制の強化に努めるとともに、近畿府県合同防災訓練及び関西広域応援訓練等を通じて実戦的な災害対応力を強化した。

- 関西広域応援訓練(実動、図上)の実施 [H26 : 3回実施→H27 : 2回実施/H29 目標 : 2回実施]

4 多彩な交流社会

(1) めざすべき社会像

- 「多彩な交流社会」では、豊かな個性を生かした地域の自立や地域間交流の拡大などのために、地域同士や国際社会との多様な交流・物流を支えるソフト・ハード両面の基盤づくりを通じた、多彩で元気な地域の実現をめざして、「地域の交流・持続を支える基盤を整える」「個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す」「世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ」の3つの将来像を掲げている。
- 「地域の交流・持続を支える基盤を整える」では、地域を取り巻く様々な基盤が拡充、有効活用されるとともに、住民や企業・NPO など地域活動団体や地域人材の充実が進み、持続可能な地域づくりが広がっている社会をめざす。
- 「個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す」では、地域の潜在力が引き出され、個性豊かな地域の自立や地域間連携の深化が進展し、個性豊かで活力のある地域づくりが進む社会をめざす。
- 「世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ」では、世界に開かれた生活環境や企業・研究機関などの分厚い集積が呼び水となり、経済や生活、文化、地域活動のあらゆる分野で世界の地域と兵庫の地域とが双方向・多面的に結ばれ、共生・成長する社会をめざす。

(2) 主な取組と現状

① 地域の交流・持続を支える基盤を整える

○ 基幹道路等の整備推進

- ・広域交流や産業を支える基盤づくりに向けたミッシングリンクの早期解消のために、県土の骨格を形成する新名神高速道路や中国横断自動車道、北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道等、「高速道六基幹軸」の整備を推進した。また、名神湾岸連絡線の計画段階評価の早期完了や播磨臨海地域道路の計画段階評価の早期着手等を国に要望した。なお、大阪湾岸道路西伸部(六甲アイランド北～駒栄)及び北近畿豊岡自動車道(豊岡道路)については、平成28年4月1日に新規事業着手が決定した。

- 新名神高速道路の整備 [H26：整備促進→H27：整備促進/H29 目標：供用済]
- 北近畿豊岡自動車道八鹿日高道路の整備 [H26：整備促進→H27：整備促進/H29 目標：供用済]

○ 社会基盤施設の老朽化対策

- ・県内の社会基盤施設の老朽化の割合が急増することを踏まえ、主要18種類の施設について10年間(H26～35)の修繕・更新計画をとりまとめた「ひょうごインフラ・メンテナンス10箇年計画」に基づき、計画的・効率的な老朽化対策を推進している。損傷等があり、計画的な対策が必要な要対策(A)施設は概ね平成35年度までに、特に損傷等が著しく早期対策が必要な早期対策(特A)施設は概ね平成28年度までに、修繕・更新を完了することを基本的な考え方としている。また、新たに道路法面施設を計画に追加し老朽化対策を進めた。

- 老朽化対策を完了した橋梁数(累計) [H26：47橋(工事着手)→H27：86橋/H29 目標：156橋]

○ 公共交通の維持・活性化

- ・持続可能な公共交通の実現に向け、「ひょうご公共交通10カ年計画」に基づき、誰もが安心して移動できる公共交通システムの維持・構築に取り組んだ。神戸電鉄粟生線について、利用者増加につながる利活用方を検討したほか、JR姫新線では、新型車両の導入等の実施と県・沿線市町・JR及び地域住民による積極的な利用促進活動により、平成21年度238万人であった乗車人数が、平成27年度は301万人となり目標の300万人を達成した。また、生活交通バスを維持、活性化するため、路線バスやコミュニティバスの運行等を支援した。

- JR姫新線の輸送人員 [H26：287万人→H27：301万人/H29 目標：300万人]
- ノンステップバス導入率 [H26：56.9%→H27：58.2%/H29 目標：64%]

○ 地域づくりを支える自立的な地域運営への支援

- ・住民による地域の個性を生かした様々な分野での地域づくりを推進するため、地域づくり活動応援事業、県民交流広場事業により県民の自発的で自立的な活動を支援した。
- ・団体・グループ、NPO、企業等の多様な主体による活動の活性化に向け、ボランティア活動の全県支援拠点である「ひょうごボランティアプラザ」を核として、ひょうごボランティア基金や地域づくり活動情報システムを活用した支援を実施した。また、震災20

年検証等を踏まえ、今後の県民ボランティア活動を推進するための基本的考え方を示す「県民ボランティア活動の促進のための施策の推進に関する基本方針」を平成28年3月に改定した。

- ・地域づくりの核となる人材を育成する「ふるさとづくり青年隊」について、新たにフォローアップ研修会等も活用し、地域の課題解決に向けた取組を推進した。

- 地域づくり活動応援事業による地域活動団体等の支援件数 [H26: 272件→H27: 237件/H29目標: 250件]
- NPO法人認証数(累計) [H26: 2,409法人→H27: 2,537法人/H29目標: 3,000法人]
- ふるさとづくり青年隊への参加青年数(累計) [H26: 130人→H27: 318人/H29目標: 400人]

② 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す

○ 地域再生大作戦等の展開による自立・持続する地域づくり

- ・多自然地域のにぎわいや活力を取り戻す地域再生大作戦について、新たに、県内で活動する地域おこし協力隊・集落支援員等のネットワークづくりを図るとともに、各関係県民局にプロジェクトチームを設置し、産官学の連携により様々なノウハウや手法を集積、活用する集落対策のプラットフォームの構築を推進した。
- ・集落が抱える課題を広域で対応するため、集落を越えた広域単位による6次産業化の推進や広域的資源管理などの仕組みづくり、地域が地域おこし協力隊等と協力して行う起業化を支援した。また、多様な地域特性を生かした自主的な地域活性化活動(ソフト)や地域活動の交流拠点整備(ハード)等に対し支援した。さらに、地域がUJIターン希望者に対して行う田舎暮らしの知識、技能等の習得研修や空き家の活用への支援等、多彩なメニューによる事業を展開した。

- 「がんばる地域」交流・自立応援事業の実施地域数(累計) [H26: 41地域→H27: 72地域/H29目標: 100地域]
- 集落再生支援事業への支援件数(累計) [H26: 48地域→H27: 93地域/H29目標: 200地域]

○ 自然環境・地域資源など強みを生かした地域づくりと交流人口の拡大

- ・あわじ環境未来島構想の実現に向けて、淡路地域でのEV導入を支援したほか、普及啓発イベント「EVアイランドあわじフェスタ」を開催した。また、再生可能エネルギーの最先端実証実験施設等を対象とした施設見学及び成果報告会を実施した。
- ・山陰海岸ジオパークについては、「アジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)シンポジウム」、「第1回JGNガイドフォーラム」を開催するとともに、平成27年11月に世界ジオパークがユネスコ正式事業に決定したことを契機に、普及と活用の取組を推進した。
- ・「農」を通じた地域間交流の拡大に向け、「農」との関わりによる新たなライフスタイルである「楽農生活」を推進するため、兵庫楽農生活センターにおける楽農学校に新たに有機農業コースを設置したほか、都市住民が遊休農地等を借上げ、楽農生活を実践する場合に必要な施設整備等を支援した。
- ・“人と自然の共生のステージ”をテーマに、淡路島全島をあげて季節の花々や食材をPRする「淡路花博2015花みどりフェア」の開催など、兵庫の魅力発信と地域間交流を促進するイベントを実施した。

- 淡路島内における再生可能エネルギー年間創出量でまかなえる世帯数(累計)
〔H26 : 54, 201 世帯→H27 : 66, 046 世帯/H29 目標 : 50, 000 世帯〕
- 兵庫楽農生活センター楽農学校(生きがい農業コース、就農コース)及び新規就農駅前講座による就農支援数(累計)〔H26 : 468人→H27 : 712人/H29目標 : 1, 250人〕

○ 人口減少・高齢化に対応した安全安心の活力あるまちづくりの推進

- ・一人ひとりのライフスタイルやライフステージに応じた豊かな居住環境の構築に向け、長期優良住宅の普及や古民家の再生を行うとともに、建築士等による建物検査(インスペクション)について民間団体を支援し、インスペクションの普及・啓発を図ることによって安全・安心で良質な中古住宅の流通を促進した。
- ・オールドニュータウンの再生について、明舞団地の再生展開支援として、アンケート調査による再生計画の検証や明舞団地の魅力創出を図る事業を行ったほか、郊外型住宅団地において、団地再生に向けた検討会の実施やコーディネーター等の派遣を支援した。
- ・城崎温泉の大規模火災の被災地について、既存の景観形成支援事業を拡充し、まちなみ景観に配慮し、かつ災害に強い街区としての早期再建を支援した。

- 長期優良住宅建築等計画の認定戸数(累計)〔H26 : 6, 491 戸→H27 : 7, 583 戸/H29 目標 : 9, 000 戸〕
- 古民家再生促進支援事業による古民家再生提案件数(累計)〔H26 : 41 件→H27 : 48 件/H29 目標 : 62 件〕
- 明舞団地内世帯数の維持〔H26 : 10, 988 世帯→H27 : 10, 911 世帯/H29 目標 : 10, 000 世帯〕

③ 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

○ グローバル人材の育成と国際交流の推進

- ・グローバル化する人材の移動を交流の架け橋とし、地域活力につなげるため、全県立高校等に外国語指導助手(ALT)を配置し、ALTとの活動・宿泊生活などを通じて「生きた英語」を学ぶ「ひょうごグローバル・リーダー育成事業」に取り組んだほか、海外へ短期留学する生徒等が、日本の文化を理解し、海外の生徒に紹介できるよう、日本文化に関する公開講座を実施した。
- ・国内外からの特色ある人材の集積に向け、県内中小企業が県内大学に在籍する外国人留学生を雇用する場合の奨励金の支給や、HUMAPによる留学推進に取り組んだほか、県立大学では、留学生の派遣、海外インターンシップの実施によりグローバル・リーダー養成をめざす「国際化体験プログラム」を推進した。
- ・双方向型の国際交流を拡大するため、ブラジル パラナ州との友好提携45周年事業をはじめ、フランス・アヴェロン県(15周年)、中国・海南省(25周年)など多彩な周年記念事業を実施した。
- ・青少年の国際交流や国際理解教育を推進するため、アメリカ合衆国ワシントン州のローズベルト高校が兵庫県立龍野高校を訪問する等の訪日教育旅行を実施した。

- 県立高校における長期（1年）海外留学支援者数 [H26：14人→H27：14人/H29目標：30人]
- 外国語指導助手（ALT）の1学級あたりの時間数 [H26：29.6時間→H27：30.2時間/H29目標：30時間]
- 県内大学外国人留学生数 [H26：5,849人→H27：5,523人/H29目標：5,600人]
- 兵庫県への教育旅行学校交流国数 [H26：14カ国→H27：10カ国/H29目標：9カ国]

○ 国際化に対応した多文化共生社会の推進

- ・外国人県民の多国籍化・定住化に対応するため、医療通訳の活用による受診体制の充実を進めるとともに、日本語指導が必要な外国人児童生徒のための子ども多文化共生サポーターの派遣、外国語による外国人県民相談の実施、ホームページ等各種媒体による多言語での生活情報の提供などを行った。
- ・日本人県民と外国人県民が相互に理解し、ともに支え合うことにより、各人が自己を生かすとともに、地域への参画と協働を担うことのできる多文化共生社会を実現するため、平成28年3月に「ひょうご多文化共生社会推進指針」を策定した。

- 医療通訳派遣回数 [H26：162回→H27：299回/H29目標：60回]
- 外国人県民を対象とした相談窓口 [H26：37箇所→H27：37箇所/H29目標：37箇所]

○ 国際的な交流基盤の整備

- ・阪神港のハブ機能、集貨力の強化を図るため、内航コンテナ貨物の助成等を通じた国際コンテナ戦略港湾・阪神港と姫路港等の連携港湾間の内航フィーダー網の充実や「関西イノベーション国際戦略総合特区」による税制優遇や財政支援等を推進した。
- ・空港の利便性を向上させるため、関西国際空港、大阪国際空港及び神戸空港の関西3空港の一体的かつ効率的な運用や大阪国際空港の長距離便拡充の実施、神戸空港の運用制限緩和を国に働きかけるとともに、空港の利活用の促進を図るなど、関西の航空需要の拡大と旅客本位の航空ネットワーク形成に努めた。

- モーダルシフトによる内航コンテナ貨物取扱量 [H26：5,375TEU→H27：3,877TEU/H29目標：10,000TEU]
- 関西3空港の旅客数 [H26：3,710万人→H27：4,121万人/H32目標：3,671万人]

Ⅲ 地域ビジョンの推進状況

- 地域ビジョンの推進を図るため、第7期地域ビジョン委員会を中心に幅広い分野での実践活動や地域の個性を生かした取組を展開した。
- 地域ごとに工夫を凝らして、県民誰もが参加できる「地域夢会議」の開催や特色ある広報誌の発行を通じて活動への参画を県民に呼びかけ、取組の輪の拡大に努めた。

県民局	[地域でめざす姿、行動目標]	[主な取組]
神戸	<p>人々が集い、喜びと感動が共有できる 「楽しいまち・神戸」をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇安心・安全な神戸の暮らしづくり ◇次代を担う神戸の人づくり ◇神戸の自然と融合した循環型の社会づくり ◇神戸らしいグローバルな魅力づくり ◇神戸の強みを活かした地域経済の活力づくり 	<p>神戸の魅力（異国情緒あふれる豊富な文化的蓄積、瀬戸内海や六甲山麓の豊かな自然等）や強み（技術力、多彩な歴史等）を活かし、神戸地域ビジョンフェスティバルをはじめ多彩な交流活動を展開することにより、「楽しいまち・神戸」の実現に向けた取組を進めた。</p>
阪神南	<p>市民主体の幅広い社会経済活動が展開する 阪神市民文化社会の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多様で个性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる ◇自律と協働による温かいコミュニティをつくる ◇自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する 	<p>尼崎 21 世紀の森づくりや尼崎運河再生プロジェクトを実施し、自然と都市の再生を図る環境先進都市づくりを進めることにより、阪神なぎさ回廊プロジェクトを推進した。</p>
阪神北	<ul style="list-style-type: none"> ◇豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する 	<p>地域の魅力再発見と地域活動の担い手の発掘をすべく、「地域見本市ーかがやく阪神北！つながる心とひろがる絆 Part2」を開催したほか、北摂里山の持続的な保全と北摂地域の活性化をめざす北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）構想を推進した。</p>
東播磨	<p>水辺・ものづくりのまちで生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇安らぎとぬくもりを感じられる「心地いいまち」 ◇自分らしさと生きがいを感じられる「楽しいまち」 ◇自然と文化の豊かさを感じられる「美しいまち」 ◇誇りと可能性を感じられる「力強いまち」 	<p>子どもを対象とした環境体験学習や水辺管理者と地域住民との語ろう会の開催により、豊かな水辺を守り、生かしていく取組を行ったほか、歌声列車の運行（JR加古川線）による沿線PRや他地域との交流促進、ものづくり企業の工場見学会の開催によるツーリズム資源開拓など交流によるにぎわいづくりを進めた。</p>
北播磨	<p>ひょうごのハートランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇交流が広がる ◇生活（くらし）の絆が深まる ◇文化が花開く ◇恵み豊かな環境が持続する ◇元気な産業が興る 	<p>文化の力で地域を元気にするため北播磨文化フォーラムを開催し地域の一体感を醸成するとともに、産業面で都市と農村の交流拡大につながるよう、地域で6次産業化に向けて積極的に取り組んでいる個人やグループを紹介するMAPを応援者向けに作成し、新たな販路開拓や取引先の拡大などの取組を推進した。</p>

県民局	[地域でめざす姿、行動目標]	[主な取組]
中播磨	<p>人の輪と地域の輪がつながる 元気な中播磨をつくろう</p> <p>◇希望が育つ中播磨 ～子どもが元気に育つ、つながりのある地域～</p> <p>◇安全安心中播磨 ～みんなが安心して暮らせる地域～</p> <p>◇自然豊かな中播磨 ～自然環境の営みを大切にする地域～</p> <p>◇元気交流中播磨 ～にぎわいと交流の元気な地域～</p>	<p>地域の歴史・文化・自然をつないできた「銀の馬車道」に焦点をあて、沿道の歴史・文化遺産を活かしたまちづくり活動をテーマにしたフォーラムを開催するなど、豊かな地域資源を再発掘・PRする取組を展開したほか、防災意識の啓発など、元気な中播磨づくりを推進した。</p>
西播磨	<p>～光と水と緑でつなぐ一元気・西播磨～</p> <p>◇人の輪社会 ～ふれあいを大切に、豊かな人間関係をつくろう～</p> <p>◇安全安心社会 ～住みなれた地域で支え合ってともに生きよう～</p> <p>◇環境王国 ～人と自然が共生する美しい西播磨をめざそう～</p> <p>◇きらきら西播磨 ～にぎわいと交流の元気な地域をつくろう～</p>	<p>人や地域を元気にする団体等に活動発表と交流の場を提供する「出る杭大会」を開催したほか、自然環境保全の啓発のための環境学習講座、安全で安心して暮らせる地域づくりをめざして防災・減災に対する意識を高める取組や、西播磨の埋もれた「食材」や「エーとこ」を発掘し紹介する取組を展開した。</p>
但馬	<p>あしたのふるさと但馬～コウノトリ翔る郷～</p> <p>◇将来像：自立の郷、賑わいの郷、癒しの郷、慈しみの郷</p> <p>◇行動目標 『人づくり』～但馬の人・暮らしを育む～ 『産業づくり』～但馬の産業・しごとを革新する～ 『誇りづくり』～但馬の魅力・誇りを伸ばす～ 『安心づくり』～但馬の安全・安心を守る～</p>	<p>地域資源に着目し、地域おこし運動として展開した「夢但馬 2014」を継承し、理念を持続的に推進していくため、夢但馬産業フェアや夢但馬応援事業など、次世代につなげる地域づくりやおもてなしによる交流の拡大を推進した。</p>
丹波	<p>みんなで丹波の森</p> <p>◇みんなで創る“自立のたんば”</p> <p>◇都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”</p> <p>◇やりがいを実感できる“元気なたんば”</p> <p>◇多世代が支え合う“絆のたんば”</p> <p>◇ともに暮らす“安全安心なたんば”</p>	<p>新たな丹波ファンの掘り起こしや交流人口の拡大をめざし、田舎暮らし体験メニューの充実による都市部との交流促進、空き民家などの地域資源を活用した定住者の拡大等により、たんばを楽しむ連携・交流プロジェクトを推進した。</p>
淡路	<p>環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をきかずく“公園島”へ～</p> <p>◇誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり</p> <p>◇個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり</p> <p>◇自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり</p> <p>◇経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり</p>	<p>環境立島“公園島淡路”の理念を継承し、発展させるべく、あわじ環境未来島構想を推進するため、認知症家族会の活動を紹介するリーフレット「オレンジマップ淡路島」の作成、鳴門の渦潮世界遺産登録へ向けた普及啓発活動、放置竹林の整備・竹材の有効利活用、防災意識の普及啓発や淡路島の魅力を語るスピーチコンテスト開催等の取組を推進した。</p>

IV 推進状況の評価

1 「兵庫のゆたかさ指標」によるビジョンの推進状況評価

(1) 「兵庫のゆたかさ指標」の趣旨

「21世紀兵庫長期ビジョン」では、県民の夢や願いを集約して、多様な「ゆたかさ」にあふれる「12の将来像」を描いている。この12の将来像をゆたかさの尺度とみなし、県民意識調査の結果を基に、全体評価と将来像に関連する調査項目への県民の評価を分析することにより、ビジョンの推進状況を点検・評価する。

(2) 評価結果の概要

① 全体評価

- 「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」、「今の生活に満足している」と答えた人は、それぞれ約77%、約73%と昨年度に引き続き比較的高水準となった。

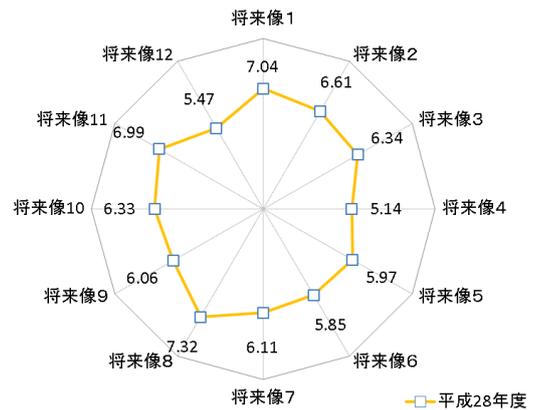
② 将来像の評価

<評価方法>

- 調査項目ごとに5段階で得られた回答（1. と思う～5. と思わない 等）を肯定的なものから5点～1点に点数化し、将来像ごとに平均点を算出のうえ、これを10点満点に換算したものを「ゆたかさ点数」とした。

<評価結果>

- 将来像ごとでは、全12の将来像中、8の将来像で10点満点中6点を上回っており、将来像1や将来像8は7点を超えている。
- 昨年度と比較すると、6の将来像で点数が上昇している。



兵庫のゆたかさ指標	4つの社会像	12の将来像	H27(a)	H28(b)	(b)-(a)
	創造的 市民社会	1	人と人のつながりで自立と安心を育む	7.06	7.04
2		兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する	6.63	6.61	-0.02
3		次代を支え挑戦する人を創る	6.35	6.34	-0.01
しごと 活性社会	4	未来を拓く産業の力を高める	5.17	5.14	-0.03
	5	地域と共に持続する産業を育む	5.91	5.97	+0.06
	6	生きがいにあふれたしごとを創る	5.81	5.85	+0.04
環境 優先社会	7	人と自然が共生する地域を創る	5.59	6.11	+0.52
	8	低炭素で資源を生かす先進地を創る	7.41	7.32	-0.09
	9	災害に強い安全安心な基盤を整える	6.13	6.06	-0.07
多彩な 交流社会	10	地域の交流・持続を支える基盤を整える	6.16	6.33	+0.17
	11	個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	6.74	6.99	+0.25
	12	世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	4.88	5.47	+0.59

将来像1 人と人のつながりで自立と安心を育む

- 「家族とのコミュニケーションがとれている」と答えた人(※)は約87%と高水準を維持。「頼りになる知り合いが近所にいる」と答えた人は約64%と昨年度より約2%増加。「地域で異なる世代の人とつきあいがある」と答えた人は約52%と昨年度と同水準。
- 「治安が良く安心だ」、「地域で安全安心を守る取組が行われている」と答えた人はそれぞれ約82%、約71%と昨年度よりそれぞれ約3%、約2%増加。「高齢者にも暮らしやすい」、「不当な差別がない」と答えた人はそれぞれ約50%、約30%と昨年度と同水準。

将来像2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する

- 「心身ともに健康だ」、「かかりつけ医がいる」と答えた人はそれぞれ約66%、約71%と比較的高水準を維持。
- 「ボランティア活動をしている、してみたい」と答えた人は約38%、「芸術文化に接する機会がある」と答えた人は約39%と昨年度と同水準。

将来像3 次代を支え挑戦する人を創る

- 「子育てしやすい」、「子が伸び伸び育つ」と答えた人は56%、約65%と比較的高水準を維持。
- 「心の豊かさを育む教育が行われている」、「若者が希望を持てる社会だ」と答えた人はそれぞれ約36%、約13%と昨年度と同水準。

将来像4 未来を拓く産業の力を高める

- 「優れた企業があることを知っている」と答えた人は37%と昨年度と同水準。「企業に活気が感じられる」と答えた人は約22%と昨年度より約3%増加。「新事業が始めやすい」と答えた人は約8%と昨年度より約5%減少。

将来像5 地域と共に持続する産業を育む

- 地元や県の「農林水産物を買っている」、「農林水産物は安心だ」と答えた人は、それぞれ70%、約76%と比較的高水準を維持。
- 地域産業の活気について、「農林水産業」は約19%と約5%増加。「サービス業」は約21%と昨年度と同水準。「商店街等」は約21%と約2%増加。「観光」は27%と昨年度より3%減少。

将来像6 生きがいにあふれたしごとを創る

- 「しごとにやりがいがある」と答えた人は62%と昨年度と同水準。「しごとと生活の両立ができて」と答えた人は約65%と昨年度より約2%減少。
- 「就職や転職がしやすい」、「年齢や性別を問わず働きやすい」と答えた人はそれぞれ約7%、約9%といずれも昨年度同様10%未満。

将来像7 人と自然が共生する地域を創る

- 地域の「自然環境を守るための取組に参加している」、「自然環境は守られている」と答えた人は、それぞれ約31%、約49%と昨年度よりそれぞれ約19%、約4%増加。「自然の生き物とふれあう機会がある」と答えた人は約35%と昨年度より約2%減少。

将来像8 低炭素で資源を生かす先進地を創る

- 「ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる」、「日頃から節電に取り組んでいる」と答えた人がそれぞれ約91%、79%と高水準を維持。「製品購入の際、環境に配慮したものを選んで」と答えた人は約62%と昨年度より2%増加。

将来像9 災害に強い安全安心な基盤を整える

- 「災害に備えた話し合いや訓練に参加している」、「災害時の避難所と避難方法を知っている」と答えた人はそれぞれ約26%、約68%と昨年度よりいずれも約3%増加。「家庭で災害に対する自主的な備えをしている」と答えた人は約39%と昨年度と同水準。

将来像10 地域の交流・持続を支える基盤を整える

- 地域の「買い物や通院の利便性」がよいと答えた人は64%と昨年度より約2%増加。「まち並み」、「移動の利便性」がよいと答えた人はそれぞれ約63%、約64%と昨年度よりいずれも約3%増加。「公共交通の利便性」がよいと答えた人は約55%と昨年度と同水準。

将来像11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す

- 「地域に関心がある」と答えた人は約73%と比較的高水準を維持。また、「地域をより良くする活動に参加している」「愛着や誇りを感じる」「自慢したい宝がある」と答えた人はそれぞれ約38%、約69%、約53%と昨年度よりそれぞれ約13%、5%、約4%増加。

将来像12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

- 「海外に出かけたり、海外での生活を経験してみたい」と答えた人は約40%と昨年度より3%増加。
- 「外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えている」と答えた人は約41%と昨年度より約13%増加。「外国人が住みやすい」と答えた人は約30%と昨年度より約11%増加。

【全体評価】

「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」、「今の生活に満足している」と答えた人は、それぞれ約77%、約73%と比較的高水準であり、現状に肯定的な人が多い。一方、「将来に不安がある」と答えた人は約57%と昨年度より約5%減少。

平成28年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査結果一覧

将来像	番号	指 標 名	H27	H28
将来像1 人と人のつながりで 自立と安心を育む	1	家族とのコミュニケーションがとれている(電話などを含み、家族との同居・別居を問わない)人の割合	88.8%	87.4%
	2	頼りになる知り合いが近所にいる人の割合	62.4%	64.3%
	3	住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがある人の割合	52.3%	51.9%
	4	住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合	78.2%	81.6%
	5	住んでいる地域では、住民による登下校時の見守り、夜間パトロールや街灯整備などの安全安心を守る取組が行われていると思う人の割合	69.3%	71.1%
	6	住んでいる地域は、高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合	49.6%	49.9%
	7	住んでいる地域は、障害のある人にも暮らしやすいと思う人の割合	30.6%	29.0%
	8	不当な差別がない社会だと思う人の割合	29.5%	30.3%
将来像2 兵庫らしい健康で充 実した生涯を送れる 社会を実現する	9	心身ともに健康であると感じる人の割合	65.6%	66.3%
	10	かかりつけの医者がある人の割合	67.0%	71.2%
	11	目的をもって学んでいるものがある人の割合	42.9%	45.1%
	12	ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたい人の割合	37.0%	38.4%
	13	お住まいの市・町では、芸術文化に接する機会があると思う人の割合	39.9%	38.7%
将来像3 次代を支え挑戦す る人を創る	14	住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合	55.0%	56.0%
	15	住んでいる地域の子どもは、伸び伸びと育っていると思う人の割合	62.7%	65.4%
	16	住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合	36.5%	36.1%
	17	若者が希望を持てる社会だと思う人の割合	13.3%	12.9%
将来像4 未来を拓く産業の力 を高める	18	お住まいの市・町には、優れた製品・技術・ブランド力をもった企業があることを知っている人の割合	36.6%	37.0%
	19	お住まいの市・町の企業には活気が感じられると思う人の割合	19.4%	22.3%
	20	商売、事業を新たに始めやすいと思う人の割合	13.8%	8.4%
将来像5 地域と共に持続する 産業を育む	21	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合	71.7%	70.0%
	22	お住まいの市・町では、観光などの訪問客が増えていると思う人の割合	30.0%	27.0%
	23	お住まいの市・町では、生活の不便さを補うサービス産業が増えていると思う人の割合	20.0%	20.7%
	24	お住まいの市・町の駅前や商店街に、活気が感じられると思う人の割合	19.0%	20.9%
	25	地元や県内の農林水産業に、活気が感じられると思う人の割合	14.2%	19.3%
	26	地元や県内でとれた農林水産物は安心だと思う人の割合	75.8%	76.1%
将来像6 生きがいにあふれた しごとを創る	27	自分のしごとにやりがいを感じる人の割合	61.6%	62.0%
	28	しごとと自分の生活の両立ができている人の割合	66.1%	64.5%
	29	自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと思う人の割合	8.3%	7.3%
	30	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると思う人の割合	9.2%	9.4%
将来像7 人と自然が共生する 地域を創る	31	山林や川、海などの自然環境を守るための取り組みに参加している、またはしたいと思う人の割合	12.2%	31.3%
	32	お住まいの市・町の自然環境は守られていると思う人の割合	45.4%	48.9%
	33	お住まいの市・町では、自然の生き物(動物・植物)とふれあう機会があると思う人の割合	36.6%	34.9%
将来像8 低炭素で資源を生か す先進地を創る	34	太陽光など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加している、または参加したいと思う人の割合	26.1%	25.0%
	35	ごみの分別やりサイクルに取り組んでいる人の割合	90.9%	90.8%
	36	日頃から節電に取り組んでいる人の割合	77.8%	79.0%
	37	製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでる人の割合	59.7%	61.7%
将来像9 災害に強い安全安 心な基盤を整える	38	住んでいる地域で、災害に備えた話し合いや訓練に参加している人の割合	23.2%	26.4%
	39	災害時の避難所と避難方法を知っている人の割合	64.3%	67.5%
	40	家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合	38.1%	38.6%
	41	住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合	36.1%	31.6%
将来像10 地域の交流・持続を 支える基盤を整える	42	住んでいる地域は、買い物や通院に便利だと思う人の割合	62.5%	64.0%
	43	住んでいる地域のまち並みはきれいだと思う人の割合	59.2%	62.6%
	44	お住まいの市・町の公共交通は便利だと思う人の割合	55.0%	55.1%
	45	お住まいの市・町は、県内のどこへでも便利に移動できると思う人の割合	60.5%	63.6%
将来像11 個性を生かした地域 の自立と地域間連携 で元気を生み出す	46	住んでいる地域のことに関心がある人の割合	72.0%	72.7%
	47	住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している、または参加したい人の割合	25.1%	38.4%
	48	住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	63.8%	68.8%
将来像12 世界との交流を兵庫 の未来へ結ぶ	49	お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合	48.8%	53.2%
	50	海外に出かけたり、海外での生活を体験したりしてみたい人の割合	36.5%	39.5%
	51	外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思う人の割合	27.1%	40.5%
全体評価	52	お住まいの市・町は、外国人にも住みやすくなっていると思う人の割合	18.5%	29.7%
	53	住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合	76.1%	77.2%
	54	全体として、今の生活に満足している人の割合	72.5%	73.2%
	55	全体として、将来の生活に不安を感じる人の割合	61.5%	57.0%

標本数	5,000	5,000
回収数	2,173	2,146
回収率	43.5%	42.9%

2 「全県ビジョンフォローアップ指標」によるビジョンの推進状況評価

(1) 「全県ビジョンフォローアップ指標」の趣旨

平成 25～29 年度の 5 年間に多様な主体が共に取り組む行動指針である「全県ビジョン推進方策（前期）」（以下、「推進方策」という）に基づき、推進方策の 5 つの行動目標に沿って体系化した約 1,280 の指標により、毎年度の進捗状況を点検・評価し、ビジョンの実現に向けた取組の充実を図る。

(2) 評価結果の概要

① 評価の方法

平成 29 年度の到達目標を 100%とし、24 年度実績をベースに、各指標の 25 年度から 29 年度の各年度に想定される到達割合（以下、想定到達割合）を設定。年度ごとに全指標、推進方策の行動目標別の想定到達割合の平均を算出し、取組実績と比較して進捗状況を評価。

行 動 目 標	指標数	推進方策 開始前	推進方策期間における 各年度想定到達割合の平均				
		【H24】	【H25】	【H26】	【H27】	【H28】	【H29】
全 体	1,283	67.4%	74.0%	78.4%	86.0%	93.2%	100%
1 「ふるさと」をつくる	304	68.4%	74.4%	79.0%	86.2%	93.3%	100%
2 いきいき暮らす	389	62.7%	68.9%	75.5%	84.2%	92.2%	100%
3 資源を生かし躍進する	267	72.7%	79.5%	83.1%	89.3%	94.8%	100%
4 リスクに備える	161	72.8%	78.8%	80.2%	87.1%	94.1%	100%
5 環境・エネルギーを支える	162	61.3%	71.1%	74.1%	83.0%	91.9%	100%

② 評価の結果

平成 27 年度は、全指標の想定到達割合の平均 86.0%に対し、実績の平均は 92.2%であり、6.2%上回った。

		H27 想定到達割合の平均 (a)	H27 実績の平均 (b)	(b)-(a)
全 体		86.0%	92.2%	6.2%
行動目標別	1 「ふるさと」をつくる	86.2%	89.5%	3.3%
	2 いきいき暮らす	84.2%	89.0%	4.8%
	3 資源を生かし躍進する	89.3%	106.5%	17.2%
	4 リスクに備える	87.1%	86.5%	-0.6%
	5 環境・エネルギーを支える	83.0%	86.0%	3.0%
(参考)将来像別	1 人と人のつながりで自立と安心を育む	86.3%	88.1%	1.8%
	2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する	85.3%	88.9%	3.6%
	3 次代を支え挑戦する人を創る	91.0%	94.2%	3.2%
	4 未来を拓く産業の力を高める	90.2%	114.2%	24.0%
	5 地域と共に持続する産業を育む	84.5%	101.2%	16.7%
	6 生きがいにあふれたしごとを創る	78.0%	92.8%	14.8%
	7 人と自然が共生する地域を創る	82.2%	85.7%	3.5%
	8 低炭素で資源を生かす先進地を創る	84.3%	86.5%	2.2%
	9 災害に強い安全安心な基盤を整える	85.7%	85.5%	-0.2%
	10 地域の交流・持続を支える基盤を整える	86.0%	85.7%	-0.3%
	11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	84.8%	89.2%	4.4%
	12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	93.7%	108.9%	15.2%